

# Weekly Market Report

## NAPHTHA C&F JAPAN

### Price Data

#### C&F JAPAN(ドル/MT)

5月後半着	1001.50	( 4.50)
6月前半着	998.50	( 4.50)
6月後半着	996.50	( 5.00)
7月前半着	995.00	( 5.50)
7月後半着	993.75	( 6.00)

1日午後6時時点の価格、( )内は前週最終営業日との比較

#### OPEN SPEC NAPHTHA スポット取引プレミアム(ドル/MT)

(千葉到着ベース)	COUNT30 日前	COUNT45 日前
5月前半着	+ 6.00	+ 3.50
5月後半着	+ 4.75	+ 3.00
6月前半着	+ 3.13	+ 1.75
6月後半着	+ 2.25	+ 1.13

#### 算出時の原油価格(ドル/bbl)

取引所/銘柄	限月	
NYMEX/WTI	MAY	107.35
ICE/BRENT	MAY	117.70

### Market Comment

前週のナフサ C&F JAPAN は 997.5 ドルと小幅続伸、クラックスブレッドは反落。アジアのファンダメンタルズは逼迫した状態がやや緩和し、クラックスブレッドは反落したが、根強い需要が引き続き見られたことで底堅い展開となった。

前々週は大きく買い戻されたがその買戻しも一巡し、週初は一服感が広がった。ナフサ価格が 1000 ドル目前まで上昇したことで高値警戒感が強まったことも、上昇ムードを抑える要因となった。アジアのファンダメンタルズは期近玉を中心にタイトな状況にあったが、徐々に売り手も現れ始め逼迫感が後退し始めた。震災により日本のナフサ需要が減退する一方で、他の地域にて一時的にナフサ需要が増大したものの、震災の影響が長引いていることから、アジア域内全体としては需要が落ちていることが想定される。また、JX 川崎のクラッカーの再稼働が延期されたことや、丸善石化千葉、三菱化学鹿島のクラッカーにおいてもまだ復帰の目処が立っていないことも、震災による影響が根強いことを印象付け、週前半はクラックスブレッドが売られた。

しかし、その後エンドユーザーの動きが活発化し、盛んに期近玉のスポット調達に動き始めた。成約レベルは以前よりプレミアム幅が縮小しているものの、未だ高値で取引されていることで、ナフサの供給が旺盛な需要に追いついていないことが裏付けられた。また、JX 川崎のクラッカーが 30 日から稼働を始めたことや、丸善石化千葉のクラッカーが週明けから稼働を再開するとの報が伝わったことで、買い手優位の展開へと移行した。欧州市場でも、週前半は利食い売りに押されたが、週後半は再び騰勢を強めクラックスブレッドが上昇した。欧州のファンダメンタルズはアジア市場以上にタイトな状況にあり、エンドユーザーへの販売についても、プレミアム幅がアジアよりも大きくなっている。欧州市場が堅調な動きとなったことも、アジア市場を押し上げる要因の一つになった。しかし週末には再び利食い売りに押され、クラックスブレッドは前々週比で反落した。原油価格がやや上昇したことで、ナフサ価格は小幅に上昇した。

今週のアジア市場は一進一退の動きとなる。アジアのファンダメンタルズは逼迫した状態が続いているが、1000 ドル目前の高値圏にあることから、高値警戒感も強まっている。震災後、三菱化学鹿島以外のクラッカーは再稼働することが決まり、徐々に日本のナフサ需要も戻ってきている。しかし震災による影響から、未だ末端の工場は本格的な稼働までには至っていない。堅調な欧州市場も、徐々に逼迫感が後退するとの見方もあり、ブルベア要因が交錯する可能性が高い。

### Daily Chart

#### C&F JAPAN(ドル/MT)



# Weekly Market Report

## NAPHTHA MOF

### Price Data

### ナフサ MOF / 国産ナフサ価格予想値および評価値

	ナフサ MOF 価格				国産ナフサ価格	
	予想値 / 評価値			速・確報値	予想値 / 評価値	速報値
	ドル/MT	ドル/円	円/KL	円/KL	円/KL	円/KL
10-Oct	700.07	83.42	40,587	40,712		
10-Nov	747.36	81.39	42,273	42,222		
10-Dec	796.85	83.61	46,305	46,634		
10-4Q			43,079	43,101	45,100	45,100
11-Jan	857.45	82.91	49,410	49,212		
11-Feb	882.61	82.33	50,505	(±0)		
11-Mar	909.37	82.49	52,133	( 2)		
11-1Q			50,513		52,500	( 100)
11-Apr	979.20	82.45	56,110	( 954)		
11-May	1,004.28	83.49	58,274	( 1,900)		
11-Jun	1,006.58	83.51	58,419	( 2,046)		
11-2Q			57,601		59,600	( 1,600)
11-Jul	1,004.50	83.53	58,312	( 2,078)		
11-Aug	1,002.50	83.55	58,211	( 2,087)		
11-Sep	1,000.57	83.57	58,117	( 2,085)		
11-3Q			58,214		60,200	( 2,100)
11-Oct	998.79	83.61	58,036	( 2,082)		
11-Nov	997.10	83.64	57,963	( 2,084)		
11-Dec	995.50	83.68	57,897	( 2,095)		
11-4Q			57,965		60,000	( 2,100)
12-Jan	993.72	83.73	57,827	( 2,106)		
12-Feb	991.67	83.78	57,743	( 2,106)		
12-Mar	989.23	83.84	57,639	( 2,102)		
12-1Q			57,736		59,700	( 2,100)

予想値は太字での表記

MOF(国産)価格の評価値は予想値ではなく1日午後6時時点での理論上の計算値

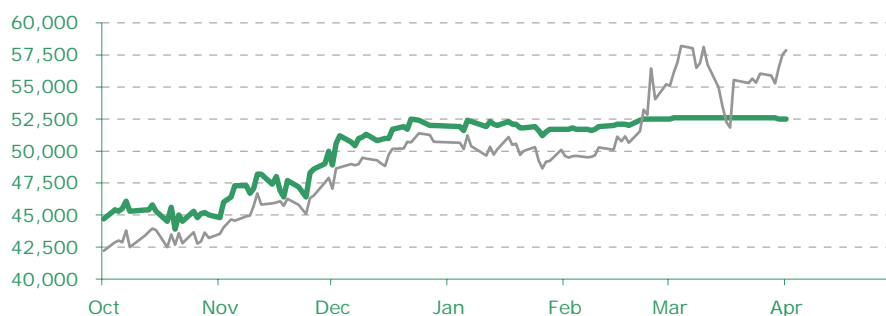
( )は前週最終営業日の予想値および評価値との比較

換算比重は0.695、

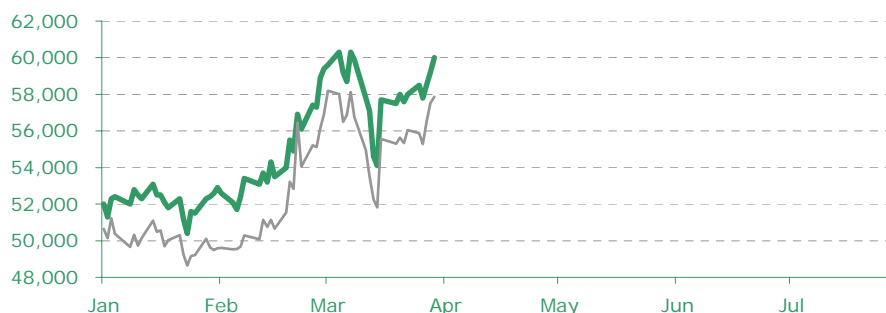
為替レートは実勢為替相場に基づいた通関レートおよび為替先物マーケットから算出

### Daily Chart

#### 11-1Q 国産ナフサ評価値/予想値(円/KL)



#### 11-2Q 国産ナフサ評価値/予想値(円/KL)



太線は弊社予想値および評価値の推移(午前10時時点)

細線はナフサ C&F JAPAN に為替および比重(0.695)を乗じた数値の推移

# Weekly Market Report

## CRUDE OIL & OIL PRODUCTS

### Price Data

#### Crude Oil (ドル/bbl)

取引所/銘柄	限月		前週末比
NYMEX/WTI	MAY	107.94	( 2.54)
	JUN	108.50	( 2.56)
ICE/BRENT	MAY	118.70	( 3.11)
	JUN	118.41	( 2.99)

#### Oil Products (セント/gal) (ドル/MT)

取引所/銘柄	限月		前週末
NYMEX/RBOB	MAY	315.13	( 10.18)
NYMEX/Heating Oil	MAY	313.45	( 6.30)
ICE/Gas Oil	APR	1000.50	( 20.75)

### Market Comment

前週の原油相場は上昇。リビアの原油供給が早期に再開されるとの見方や、原発事故による日本の復興の遅れ、原油在庫の予想以上の増加などを切欠に売り優勢の展開となった。しかし、週末にかけて、リビアの混乱が再燃し、またドルが対ユーロで軟調となったことで切り返した。石油製品相場の納会、月末と期末とが重なり、テクニカル的な買いも相場を押し上げた可能性が高い。さらには、米国の雇用統計がポジティブな内容となったことも好感された。

リビアでは内乱が激化している。週初には、反体制派が石油都市である東部のラスラヌフを奪還したと報じられた。また、多国籍軍による空爆も続いたことで、同国の騒乱が収束に向かうとの期待感から、原油供給の再開時期が早まるとの見方に繋がった。また、リビアと同じく石油輸出国機構(OPEC)に加盟しているカタールが、リビアの反政府勢力の中心組織である国民評議会を正当な政府として承認したことも、事態収束に向けた動きが加速するとの見方に繋がった。このことにより、欧州連合(EU)はリビア産の石油について禁輸措置を講じていたが、カタールを経由しての可能性も浮上した。また、米国の石油・天然ガス掘削会社のベーカー・ヒューズが、サウジアラビアでの掘削リグを、現在の92から118へと28%増加することを明らかにし、リビア減産分をサウジアラビアが補完する動きが本格化するとの見方も、同国をめぐる供給懸念の後退に繋がったとみられる。しかし、週後半には、カダフィ政権が再びラスラヌフを奪還し、さらに石油やガスの主要都市であるブレガへの攻撃も強めたことで、同国の原油供給停滞への懸念が再度強まっている。

リビアを中心とした北アフリカおよび中東の情勢不安はブル要因だが、足元の需給に逼迫感は見られていない。米エネルギー情報局(EIA)が発表した週間石油統計で、原油在庫は事前予想を上回る増加となった。また、WTIの受渡場所であるオクラホマ州クッシングの原油在庫は、過去最高水準へと積み増しされた。ガソリン在庫は予想以上の大幅減少となったが、需要に伸びが見られていない。世界第1位の石油消費国である米国の石油需給は概ねベアであるうえ、世界第3位の消費国である日本についても、復興需要は期待されるが、直近では経済活動の停滞により需要は鈍化する公算が大きい。また、ソブリン債問題を背景に、欧州地域の景気回復の鈍化への懸念もある。さらには、期近ベースの直近高値106.95ドルを上抜けずに下落したことで、チャート要因から手仕舞い売りが入りやすい素地にあった。しかし、週後半にはその高値を上抜くほどの動きに転じている。地政学的リスクもサポート要因ではあるが、おそらくテクニカル的な動きが主因と考えられる。期末を前に、運用成績良化に向けてファンド筋のドレッシング買いが入った可能性がある。また、ガソリン在庫が大幅に減少したことで、それを囿した買いから納会事情もブル要因となった可能性がある。インターナルファクターにより押し上げられ、106.95ドルのレジスタンスを上抜いたことで、短期的に踏みが入り上げ幅を拡大した公算が大きい。リビアを中心とした情勢不安は買い材料だが、同国からの供給減少については織り込み済みであり、右肩上がり一辺倒の動きには懐疑的とならざるを得ない。踏み一巡後は利食い売りに押される展開が想定される。

### Daily Chart

#### NYMEX/WTI 期近日足 (ドル/bbl)



# Weekly Market Report

## PETROCHEMICALS MARKET COMMENT

### Aromatics

#### BTX/Styrene Monomer

前週のアジアのベンゼンマーケットは、FOB KOREA1100 ドル前半で下げ渋る動き。他の芳香族は、トルエンは週初に下押されるも、その後は 1060 ドルを挟んでの揉み合い。一方のパラキシレン (PX) はジリ安基調を継続し 1700 ドルを割り込んでいる。震災により供給減少が懸念され、依然として稼働を停止しているプラントはあるものの、JX 川崎など一部稼働を再開するプラントも見られており、一時の供給懸念は後退している。また、川下の高純度テレフタル酸 (PTA) およびその誘導品であるポリエステル需要が減少していることで、需給タイト感が和らぎ売り先行の展開となっている。

アジアのベンゼン市況は、軟調地合いを継続し下値を切り下げたが、後半には小幅ながら切り返している。需給ファンダメンタルズは弱気な材料が多く見られているが、原油相場が急速に切り返したことで下げ渋った感がある。川下の主要誘導品であるスチレンモノマー (SM) からの引き合いが減少し、アジアおよび米国のベンゼン需給は供給過剰気味。アジアでは、中国の建築基準が強化され、建築材料として使用される EPS の基準がグレードアップし、従来の汎用 EPS 需要が大きく減少している。ポリスチレンのほかにも、マージン悪化から ABS 需要も減少気味であり、中国を中心に SM 需要が落ち込んでいる。また、米国ではライオンデルバセルのテキサス州の SM プラントや、スノコのオハイオ州の SM プラントなどが稼働を中断しており、SM 需要の減少により原料ベンゼンの供給に過剰感がある。需給面の弱さから上値重く推移し、1150 ドルを割り込んだが、後半に入り川上の原油相場が急速に切り返して年初来高値を更新したことで、その動きに連れベンゼン市況にも買いが入った。下げ渋りから小戻してはいるものの、積極的に買い進むだけの材料に乏しく、原油高が一服するようだと再度下げに転じる公算が大きい。なお、対ナフサとのスプレッドは、150 ドル水準まで縮小しており、相対的には短期で売られ過ぎ感がある点は否めない。

### Olefins

#### Ethylene/Propylene

前週のアジアのエチレンマーケットは堅調。C&F NE ASIA1350 ドルを上抜いたが、その後は決め手材料難から横ばいで推移している。シェルのシンガポールのエチレンプラントの稼働停止、震災による日本のエチレン供給の減少見通しが下値を支えている。震災後、日本のエチレン能力の 23% が一時稼働停止となった。三菱化学の鹿島事業所の 2 系列だけで約 11% を占め、再稼働には早くとも 2 ヶ月を要する見通し。ただし、中国では在庫が潤沢であるうえ、主要誘導品であるポリエチレン (PE) の需要が乏しいことで、需給が逼迫するには至っていない。供給減少見通しから底堅い動きが見込まれるが、同時に上値の重い商状となる公算が大きい。

前週のアジアのプロピレンマーケットは小動き。FOB KOREA1560 ドル台で目立った動きは見られていない。引き続き JX 仙台は稼働を停止しているが、根岸や川崎が再稼働したことで、一時の供給逼迫への懸念が和らいでいる。震災による一時的なスポット購買も一巡した模様で、新規材料待ちの商状となっている。

### Polymers

#### Polyethylene/Polypropylene

前週のアジアのポリエチレンマーケットは小幅まちまち。低密度ポリエチレン (LDPE) は C&F NE ASIA1685 ドル、直鎖状低密度ポリエチレン (LLDPE) は 1390 ドル割れへと小幅に値を崩したが、高密度ポリエチレン (HDPE) は 1360 ドルへと反発した。原料エチレン市況が堅調なことから、中東産のオフアは比較的高唱えとなっている。しかし、中国のエンドユーザーは、安値圏で購入した在庫を抱えていることもあり、積極的な買いに動いていない。

前週のアジアのプロピレンマーケットは小動き。HOMO グレードは C&F NE ASIA1640 ドル台での推移。潤沢な在庫を背景に中国のエンドユーザーの買い気は乏しい。ただし、震災により 4 分の 1 以上の能力の稼働が停止した日本からの輸入需要が期待されることで、サプライヤーは原料高を背景に幾分高めの値段で出している模様。定修要因もあり、目先は堅調地合いを継続する可能性が高い。

#### Polystyrene/ABS

前週のアジアのポリスチレンマーケットは小幅続落。GPPS は C&F NE ASIA1580 ドル水準。原料 SM 市況の下落を眺め、先安期待からエンドユーザーは実需で必要な以外の購買を手控えている模様。中国政府のインフレ抑制への動きを懸念して、キャッシュ化する動きも上値抑制要因となっている。

前週のアジアの ABS マーケットは続落。2300 ドルを割り込み、1 月中旬以来の安値水準へと値を崩している。SM 市況は値を下げているが、引き続きアクリロニトリル (AN) やブタジエンが強含みの展開となっている。原料市況は総じて下げ渋っているなか、季節的な需要減少期にあたり、かつマージンがやや圧縮されてきていることで、コスト見合いからの引き合い低下も見られている。下げ足を速める展開は見込み難いが、下向きバイアスが強まる可能性はある。



# Weekly Market Report

## FUNDAMENTALS & WEEKLY TOPICS

### 「2月のPP輸入単価、安値トップ10」

PPの輸入はコモノマーの量により、税番 3902.10-010 と税番 3902.30 - 010 のどちらかでの申告となり関税率が異なる。2011年2月のPP輸入実績は次のとおり。PP(HOMO)の輸入数量は前月比 86トン減の 3063トン、輸入価額は4億7681万8000円となった。PP(COPOLYMER)の輸入数量は同1228トン減の5274トン、輸入価額は7億6015万6000円。価額を数量で割り返した2月の輸入単価(CIF JAPAN)の計算値は、PP(HOMO)が前月比9円高の156円/kg、PP(COPOLYMER)が同1円安の144円/kg。貿易統計上のPP統計値は、汎用品と付加価値品との区別は出来ないが、税関別や国別に分けることで汎用品の輸入単価が概ね予想可能となる。以下、貿易統計値およびそれを基に算出した単価の安値トップ10を記載する。なお、2月の通関レートは、1ドル=81.76~83.42円、日数による加重平均値は、1ドル=82.33円。

PP(HOMO)		2011年2月		CIF JAPAN	
税関	国名	数量 (kg)	価額 (1000円)	単価 (円/kg)	単価 (ドル/MT)
博多	中国	27,597	1,673	61	727 - 741
清水	中国	20,000	1,617	81	969 - 989
東京	フランス	204,100	21,843	107	1,283 - 1,309
博多	韓国	28,000	3,241	116	1,388 - 1,416
門司	タイ	105,000	12,839	122	1,466 - 1,496
名古屋	サウジアラビア	864,220	106,172	123	1,473 - 1,503
横浜	サウジアラビア	140,660	17,441	124	1,486 - 1,517
博多	タイ	30,000	3,792	126	1,515 - 1,546
岩国	タイ	12,000	1,520	127	1,518 - 1,549
苫小牧	韓国	28,000	3,605	129	1,543 - 1,575

PP(COPOLYMER)		2011年2月		CIF JAPAN	
税関	国名	数量 (kg)	価額 (1000円)	単価 (円/kg)	単価 (ドル/MT)
三河	タイ	40,000	1,763	44	528 - 539
清水	マレーシア	286,000	19,495	68	817 - 834
清水	中国	400,000	34,518	86	1,034 - 1,055
大阪	中国	115,800	10,954	95	1,134 - 1,157
東京	タイ	41,000	4,130	101	1,208 - 1,232
名古屋	シンガポール	352,000	45,397	129	1,546 - 1,577
大阪	韓国	290,250	37,519	129	1,550 - 1,581
横浜	タイ	30,000	3,880	129	1,550 - 1,582
博多	韓国	75,000	9,803	131	1,567 - 1,599
高知	韓国	30,000	3,924	131	1,568 - 1,600

(出所:財務省)

### 「2月の中国PP国別輸入数量トップ10」

PP(HOMO)		2011年2月		CIF CHINA
輸入先	数量 (MT)	価額 (ドル)	単価 (ドル/MT)	単価 (ドル/MT)
合計	271,312	402,543,063		1,484
前月比	▼ 124,662	▼ 157,461,713		△ 69
前年同月比	▼ 66,211	▼ 17,747,239		△ 238
数量TOP10				
韓国	58,870	89,505,506		1,520
サウジアラビア	39,703	57,691,744		1,453
台湾	33,917	49,868,225		1,470
インド	24,154	34,179,580		1,415
日本	20,348	34,386,202		1,690
米国	18,286	27,834,061		1,522
アラブ首長国連邦	17,814	20,704,123		1,162
シンガポール	10,562	16,242,283		1,538
タイ	10,452	14,823,959		1,418
オマーン	7,029	10,399,023		1,479

参考		2011年2月		CIF JAPAN
日本	数量 (MT)	単価 (円/kg)	単価 (ドル/MT)	単価 (ドル/MT)
合計	3,063	156		1,891
TOP3				
サウジアラビア	1,104	124		1,504
韓国	686	158		1,924
タイ	406	149		1,810

スポット市況 (ドル/MT)	12月	1月	2月
CFR CHINA	1,419~1,476	1,479~1,526	1,529~1,551

PP(COPOLYMER)		2011年2月		CIF CHINA
輸入先	数量 (MT)	価額 (ドル)	単価 (ドル/MT)	単価 (ドル/MT)
合計	64,625	103,544,288		1,602
前月比	▼ 14,031	▼ 19,737,664		△ 35
前年同月比	▼ 12,738	△ 989,561		△ 277
数量TOP10				
韓国	19,042	30,364,219		1,595
シンガポール	9,491	15,640,189		1,648
米国	9,149	14,253,922		1,558
タイ	6,168	9,898,305		1,605
アラブ首長国連邦	4,689	5,580,561		1,190
日本	4,260	8,413,641		1,975
サウジアラビア	3,689	5,649,558		1,532
台湾	3,171	5,141,664		1,621
マレーシア	1,429	2,279,799		1,595
ドイツ	964	1,552,023		1,610

参考		2011年2月		CIF JAPAN
日本	数量 (MT)	単価 (円/kg)	単価 (ドル/MT)	単価 (ドル/MT)
合計	5,274	144		1,751
TOP3				
韓国	2,740	140		1,696
中国	625	101		1,228
米国	479	209		2,542

スポット市況 (ドル/MT)	12月	1月	2月
CFR CHINA	1,529~1,586	1,549~1,551	1,554~1,601

(出所:中国海関総署)

# Weekly Market Report

「2月化学工業統計速報 = 経済産業省」

経済産業省は31日、2月の化学工業統計速報を発表した。主要石油化学製品(抜粋)の生産・出荷・在庫は以下のとおり。

		2月(MT)	前月比	前年同月比			2月(MT)	前月比	前年同月比
ベンゼン	生産	417,147	▼8.1%	△2.8%	PPG	生産	24,271	▼2.9%	▼3.9%
	出荷	292,643	▼6.5%	△3.5%		出荷	20,740	▼2.6%	△5.3%
	在庫	133,265	▼0.2%	▼15.4%		在庫	34,858	△3.4%	▼4.0%
トルエン	生産	111,276	▼12.6%	▼10.8%	アクリロニトリル	生産	61,050	▼12.7%	△29.4%
	出荷	71,439	▼1.9%	▼28.2%		出荷	47,344	▼16.9%	△7.0%
	在庫	45,819	▼12.9%	▼10.8%		在庫	26,711	△8.7%	△35.1%
キシレン	生産	504,796	▼8.2%	△1.9%	ブタジエン	生産	84,743	▼8.9%	△5.6%
	出荷	229,193	▼1.0%	△1.6%		出荷	66,812	△2.1%	△25.7%
	在庫	138,398	△9.1%	△1.2%		在庫	18,799	▼23.3%	▼27.2%
パラキシレン	生産	255,097	▼12.9%	▼2.2%	ポリエチレン	生産	251,761	▼6.7%	△6.3%
	出荷	275,729	▼19.4%	△7.9%		出荷	244,350	▼6.7%	△5.7%
	在庫	91,283	△4.2%	▼20.2%		在庫	450,787	△2.5%	▼11.0%
スチレンモノマー	生産	251,148	▼8.8%	△9.1%	ポリスチレン	生産	120,306	△0.5%	△6.8%
	出荷	231,108	▼12.9%	△13.9%		出荷	114,421	△6.0%	△4.9%
	在庫	84,696	△9.2%	▼19.0%		在庫	154,966	△0.9%	△1.0%
フェノール	生産	75,891	▼11.8%	△0.2%	ポリプロピレン	生産	244,256	△0.3%	▼4.6%
	出荷	42,363	▼18.7%	△2.2%		出荷	238,852	△5.6%	▼0.5%
	在庫	24,356	△29.8%	▼18.9%		在庫	425,334	△1.2%	▼0.7%
テレフタル酸	生産	55,726	▼32.5%	▼26.7%	フェノール樹脂	生産	23,980	△3.8%	△7.6%
	出荷	54,979	▼6.5%	▼23.7%		出荷	22,964	△3.1%	△8.7%
	在庫	42,044	▼22.0%	▼4.6%		在庫	12,651	△0.9%	△7.5%
TDI	生産	-	-	-	メタクリル樹脂	生産	18,046	▼5.2%	△8.0%
	出荷	-	-	-		出荷	15,925	△4.3%	△5.9%
	在庫	-	-	-		在庫	22,954	▼0.2%	△30.2%
シクロヘキサン	生産	39,882	▼8.4%	▼14.5%	ポリビニルアルコール	生産	18,231	▼15.5%	▼5.0%
	出荷	28,890	▼12.1%	▼6.1%		出荷	16,197	△16.9%	▼1.5%
	在庫	17,771	△6.8%	△0.5%		在庫	40,473	▼3.9%	△10.7%
カプロラクタム	生産	36,330	▼10.1%	▼6.2%	塩化ビニル樹脂	生産	143,742	▼2.8%	▼10.1%
	出荷	25,448	△17.8%	▼2.8%		出荷	147,000	△4.1%	▼2.1%
	在庫	25,230	△0.6%	△19.4%		在庫	103,042	▼3.1%	▼7.9%
MDI	生産	42,163	▼0.2%	△9.2%	ポリアミド系樹脂 成形材料	生産	17,981	▼14.6%	▼7.2%
	出荷	36,151	△10.1%	△27.5%		出荷	19,933	△12.4%	△4.5%
	在庫	37,588	▼1.0%	▼0.8%		在庫	35,007	▼6.8%	▼6.8%
エチレン	生産	605,331	▼6.4%	△2.1%	ポリカーボネート	生産	29,421	▼11.1%	△1.0%
	出荷	463,081	△0.4%	△8.3%		出荷	30,558	△10.0%	△22.0%
	在庫	52,647	▼9.4%	▼27.7%		在庫	64,081	▼3.7%	△37.0%
エチレングリコール	生産	57,176	▼6.5%	△10.8%	PET	生産	62,017	▼16.3%	△9.4%
	出荷	57,428	△9.9%	△19.2%		出荷	34,098	▼7.2%	△3.3%
	在庫	34,043	▼8.6%	▼12.8%		在庫	95,394	▼1.1%	△26.4%
プロピレン	生産	521,748	▼6.6%	△3.5%	合成ゴム	生産	142,542	▼6.1%	△11.2%
	出荷	514,801	▼5.1%	▼0.8%		出荷	129,202	△8.2%	△3.6%
	在庫	63,087	△4.3%	△9.4%		在庫	265,398	△1.4%	△7.0%

(出所: 経済産業省)

「NAP MOF PRICE AVE+2000」INDEX = ナフサ輸入価格単純平均 + ¥2000/KL

(単位: 円/KL)

期間(3ヶ月)	輸入価格単純平均 + ¥2000/KL	Amerex 占有率	期間(6ヶ月)	輸入価格単純平均 + ¥2000/KL	Amerex 占有率
10 Oct - 10 Dec	45,200	0%	10 Jul - 10 Dec	43,900	0%
10 Nov - 11 Jan	48,000	0%	10 Aug - 11 Jan	45,100	0%
10 Dec - 11 Feb	50,700	0%	10 Sep - 11 Feb	46,800	0%
11 Jan - 11 Mar	52,500	33%	10 Oct - 11 Mar	48,900	17%
11 Feb - 11 Apr	54,800	67%	10 Nov - 11 Apr	51,400	33%
11 Mar - 11 May	57,500	100%	10 Dec - 11 May	54,100	50%
11 Apr - 11 Jun	59,600	100%	11 Jan - 11 Jun	56,100	67%
11 May - 11 Jul	60,300	100%	11 Feb - 11 Jul	57,600	83%
11 Jun - 11 Aug	60,300	100%	11 Mar - 11 Aug	58,900	100%
11 Jul - 11 Sep	60,200	100%	11 Apr - 11 Sep	59,900	100%
11 Aug - 11 Oct	60,100	100%	11 May - 11 Oct	60,200	100%
11 Sep - 11 Nov	60,000	100%	11 Jun - 11 Nov	60,200	100%
11 Oct - 11 Dec	60,000	100%	11 Jul - 11 Dec	60,100	100%
11 Nov - 12 Jan	59,900	100%	11 Aug - 12 Jan	60,000	100%
11 Dec - 12 Feb	59,800	100%	11 Sep - 12 Feb	59,900	100%
12 Jan - 12 Mar	59,700	100%	11 Oct - 12 Mar	59,900	100%

算出には1日18時時点のナフサ MOF 評価値及び予想値を使用。Amerex 占有率は上記算出における Amerex のナフサ MOF 評価値及び予想値の使用率を示す。

# Weekly Market Report

## 「特定特恵鉱工業品 プラスチック類(項名13)の輸入額推移」

30日の財務省貿易統計発表により2月末現在の合成樹脂(31項)特恵輸入額は99億2881万8000円、シーリング枠消化率は45.0%となった。4-2月の各国輸入額はタイが50億3993万6000円、中国が45億0164万4000円、インドが1億8460万8000円、ブラジルが2億0263万円となっている。タイからのプラスチック類(項名13)輸入額は国別限度額の44億1038万9000円を超えたことから、関税暫定措置法に従い同国からの同品目輸入に関し10月16日から特恵関税の適用が停止されることになった。また、中国からの同輸入額も国別限度額を超えたことから3月16日から特恵関税の適用が停止されることになった。従来は限度枠を超えると翌日には特恵停止の手続きがとられ、2日後に停止となっていたが、現在では月内は枠を超えても特恵対象となり翌月中旬に停止となる。

対象品目: PE, PP, EVA, PS, SAN, ABS, PVC, PDVC, PTFE, PMMA等	(単位:1000円)									
	2006年度		2007年度		2008年度		2009年度		2010年度(4-2月)	
タイ	4,239,067	1/16	4,681,324	1/16	6,265,393	11/18	4,316,912		5,039,936	10/16
サウジアラビア	4,343,870	10/17	4,648,994	10/16	4,915,918	9/17	-		-	
マレーシア	824,819	7/13	-		-		-		-	
中国	3,520,153		4,361,159		3,884,008		3,125,445		4,501,644	3/16
フィリピン	296,235		241,304		152,194		-		-	
インド	328,592		191,800		162,763		100,943		184,608	
ブラジル	50,368		109,930		105,082		36,395		202,630	
インドネシア	26,965		26,173		6,321		-		-	
ベトナム	29,812		21,053		61,353		17,471		-	
ルーマニア	33,699		-		-		-		-	
イラン	-		-		-		-		-	
合計	13,693,580		14,281,737		15,553,032		7,597,166		9,928,818	
シーリング枠	19,592,867		20,180,653		20,786,073		21,409,655		22,051,945	
国別限度額	20%		20%		20%		20%		20%	

(出所:財務省)

日付は特恵輸入適用停止日、マレーシアは、日本・マレーシア経済連携協定の発効に伴うもの  
サウジアラビアは、「高所得国」基準に該当することにより、2009年度から特恵国対象から外れた  
韓国、台湾、シンガポールは2000年に特恵国対象国から外れた

シーリング枠 : 毎年3%増加(2001年度から)、以前は毎年6%増加  
国別限度額 : 全体枠の20%(2001年度から)、以前は全体枠の25%  
特恵税率 : 一般税率の20%(2001年度から)、以前は無税

## 「カ性ソーダ国内出荷、6ヶ月連続の前年同月比プラス = 日本ソーダ工業会」

日本ソーダ工業会がまとめた2月のソーダ工業薬品出荷及び自家消費実績によると、カ性ソーダの2月の出荷は前月比0.2%減の35万9674トンと2ヶ月連続で減少した。ただし、前年同月に比べると7.2%上回っている。このうち内需は前年同月比5.6%増の28万7989トンとなり、6ヶ月連続で前年実績を上回った。輸出は7万1685トンと前年同月を14.5%上回った。生産は34万5950トンと2ヶ月連続で減少したが、前年同月を3.2%上回っている。在庫は15万9546トンとなり、前月同月を5.6%下回った。

(単位:トン)

	生産	内需	輸出	出荷合計	月末在庫
Sep-10	353,182	303,958	41,510	345,488	149,381
Oct-10	353,219	294,057	75,491	369,548	133,052
Nov-10	370,560	313,002	42,385	355,387	148,224
Dec-10	383,970	303,450	77,227	380,677	151,521
Jan-11	382,281	306,779	53,759	360,538	173,271
Feb-11	345,950	287,989	71,685	359,674	159,546

(出所:日本ソーダ工業会)

## 「2月の輸入ナフサ価格、5万0204円/KL = 財務省貿易統計」

30日財務省が発表した貿易統計によると、2月のナフサMOF価格(速報値)は前月比1002円高の5万0204円/KLとなった。前月の確報値は4万9202円と速報値から10円の方下修正。輸入数量は231万9510KLと前月から6330KL減少した。

また、2月の原油MOF価格(速報値)は前月比1820円高の4万9665円/KLとなったことで、ナフサと原油のクラックスプレッドは、1月の1358円の順ザヤから539円の順ザヤへと順ザヤ幅を縮小した。

	第1数量(KL)	第2数量(kg)	価額(円)	ナフサMOF(円/KL)	比重換算
Dec-10	2,278,551	1,581,874,676	106,257,239	46,634	0.6942
Jan-11	2,325,840	1,616,153,911	114,437,068	49,202	0.6949
Feb-11	2,319,510	1,610,612,478	116,448,772	50,204	0.6944

(出所:財務省の統計を基に算出)

# Weekly Market Report

## 「川崎のクラッカー、稼働再開 = JX 日鉱日石エネルギー」

JX 日鉱日石エネルギーは 29 日、川崎製造所のナフサクラッカー（エチレン生産能力=40 万 4000 トン/年）の稼働を再開したことを明らかにした。11 日に発生した地震の影響で、同クラッカーは稼働を中断していた。

## 「インドネシアでの SAP 事業規模を拡大 = 日本触媒」

日本触媒は 31 日、インドネシア子会社 PT. Nippon Shokubai Indonesia (NSI) での高吸水性樹脂 (SAP) 事業化計画の規模を拡大することを明らかにした。SAP は紙おむつの原料として堅調な需要の伸びを示しており、とりわけ顕著な新興国市場における需要拡大に対応するため、2013 年 3 月稼働予定で NSI での 3 万トン/年の事業化を昨年 7 月に決議していた。しかし、SAP 需要は予想を超えた急増を示し、昨秋に完工した姫路製造所での 6 万トン/年プラントも含め、同社グループの SAP プラントはいずれも高稼働となっている。NSI での 3 万トン増設後もすぐに供給能力が不足する見込みであることから、主原料アクリル酸を含めた大規模増設が早急との認識に至った。既存立地、新規立地を含め、NSI での新設計画の規模拡大 (SAP9 万トン、アクリル酸 8 万トン) を決定した。2013 年 2 月末の完工、同年 8 月の商業運転開始を予定している。

## 「米国で PP プラント建設へ = 湖南石油化学」

韓国石化大手湖南石油化学は、初めて米国で事業展開をすることを明らかにした。アラバマ州オーバーンにポリプロピレン製造設備を建設する予定で、まずは約 925 万ドルを投じて来年までに 30 の事業を創出するという。なお、研究開発プロジェクトにおいては、現地のオーバーン大学と協力することを明らかにしている。

## 「震災の影響で日本のエチレン能力が 23% 低下 = CMAI」

米市場調査会社の化学市場アソシエイツ (CMAI) によると、11 日の震災の影響で日本のエチレン生産能力の 23% が閉鎖されたままだという。国内エチレン能力の約 11% に相当する三菱化学の鹿島事業所の 2 つのクラッカーの稼働停止の影響が大きい。エチレン誘導品としては、ポリエチレン能力の 46%、PVC 能力の 37% が削減されている。ほかにもプロピレン能力の 27%、ポリプロピレン能力の 35% が削減されたままだという。また、芳香族については、JX 日鉱日石エネルギーの根岸製油所は 21 日に再稼働したものの、ベンゼン能力の 25%、キシレン能力の 22% に影響が出たと指摘している。

## 「コグニスの統合計画を発表 = BASF」

独化学大手 BASF は 25 日、独特殊化学大手コグニスの統合計画を発表した。同社は、今回の統合により成長の相乗効果が期待され、2015 年までに約 1 億 3500 万ユーロ (約 2100 億円) の追加の税引前利益と、2013 年の年末までに約 1 億 4000 万ユーロ (約 2200 億円) のコストシナジーの創出を見込んでいる。同社は 2010 年 6 月にコグニスの買収計画を発表しており、2010 年 12 月に買収を完了している。今後の事業所運営計画では、コグニスの 28 ヶ所の生産施設のうち 26 ヶ所は存続させ、英国のヒースにある施設に関しては売却、ノルウェーのトムスの施設は戦略的な案が検討される予定。また、コグニスの 37 ヶ所の非生産施設のうち 26 ヶ所は、BASF の既存事業所などに統合され、9 ヶ所は維持、残りの 2 ヶ所については現在検討中となっている。BASF のパーソナルケア、欧州地域の事業本部は、コグニスの本部があったドイツのモンハイムに置かれる。コグニスの最大規模の施設であるデュッセルドルフ、ホルトハウゼンの事業所は、ケアケミカル事業部の主要な生産拠点とする予定。特にパーソナルケア事業のグローバルな開発の中心になると同時に、研究拠点として再生可能ベースの原料を重点的に研究開発する予定。

## 「中国で MDI プラント建設 = BASF」

独化学大手 BASF は、中国の重慶でポリウレタンの原料となるジフェニルメタンジイソシアネート (MDI) のプラントを建設するための承認を得た。同プロジェクトには 80 億元が投じられ、重慶の常州化学産業パークに 40 万トン/年の生産能力を有する MDI プラントが建設される予定で、完成すると世界最大の MDI プラントとなる。2014 年に稼働を開始する予定。プロジェクト始動時には環境保護団体や地域住民の建設反対の抗議があったが、一定の環境アセスメントを経た後、環境省および地方自治体から建設許可の承認を得た。

## 「ハンガリーエンブラプラント稼働 = 三養社」

韓国食品・化学メーカーの三養社は 25 日、ハンガリーで投資した三養 EP ハンガリーの竣工式を行った。同社は 1000 万ユーロを投じ、1 万トン/年のエンブラ生産プラントを建設。今後さらに追加投資を行い、2 万トン/年以上に増強する計画もある。三養 EP ハンガリーは 2010 年 2 月に設立、今年 3 月には商業生産に入り、7 月には稼働率を 100% へ上げる予定。同社が生産する高機能プラスチックは、三星電子スロバキアおよび三星電子ハンガリー、LG 電子ポーランドの LCD、TV ハウジングやパネル用素材として供給される。従来は韓国で生産し輸出していたが、今後は現地生産、供給体制に転じ、現地の韓国系企業だけでなく欧州の電機電子業界向けへの効率的な顧客サービスで市場の拡大を見込む。また三養社は、今後中国の広東や東南アジアに追加進出することを明らかにしている。

## 「インドネシアで 50 億ドルの投資予定 = インドラマ」

タイ化学大手インドラマベンチャーズは、インドネシアでポリエステル分野を中心に 2014 年までに 50 億ドルを投資する計画を準備している。同社は、2010 年にインドネシアでポリエステルなどの分野に 22 億ドルを投資し、西ジャワ州ブルワカルタにポリエステルプラントを 2011 年中に建設する。また、同プラントなどへの原料確保のために、スマトラで石炭ガス化事業が推進されている。2014 年までにはインドネシアでの石油化学、石油、ガスなどの事業に 28 億ドルを追加投資し、事業の多角化経営を計画する。



# Weekly Market Report

## 「エジプトで新エチレン事業 = シディケール石油化学」

エジプトのシディケール石油化学と国営会社 2 社は、新たなエチレン事業への投資を計画している。同プロジェクトには複数の地方銀行からの融資により 11 億 8000 万ドルが投じられ、46 万トン/年の生産能力を有するエチレンプラントが建設する予定であり、3 年後の完工を目指す。なお、シディケール石油化学は、新合弁会社の発行株式の 20% を所有することになる。

## 「エタンクラッカー建設へのフィージビリティスタディ実施 = シェブロンフィリップス」

米石油化学大手シェブロンフィリップスは 28 日、米メキシコ湾岸地域にあるプラントで、新たにエタンクラッカーおよびエチレン誘導品プラントの建設に関する実行可能性調査を行うことを明らかにした。新しいプラントは 100 万トン/年の能力を有し、シェールガスからの原料を使用することが検討されている。調査は 2011 年末までに終了する予定であり、調査結果次第では 3 年後から 4 年後にはプラントが完成する。同社は現在、テキサス州スウィーニー、ベイタウン、ポートアーサーでエチレンを生産している。

## 「高吸水性ポリマープラント建設へのフィージビリティスタディ実施 = BASF、ペトロナス」

独化学大手 BASF とマレーシア国営石油会社ペトロナスは 29 日、両社で新たな高吸水性ポリマー - プラントの建設に関する実行可能性調査を行うことを明らかにした。また、マレーシアのパハン州ゲベンでの合弁企業 BASF ペトロナス・ケミカルズが、アクリル酸、n-ブタノールの生産能力を増強することを決定した。BASF は、アジア太平洋地域の化学市場は著しく成長していることから、ペトロナスとの提携によりアジアでの生産基盤を固め、ペトロナスは下流石油化学事業の拡大のため国内投資促進を推進している。両社は昨年 12 月、マレーシアにおける非イオン界面活性剤やメタンスルホン酸、イソノanol などの特殊化学製品プラントの建設に関する実行可能性調査を行うことで合意している。

## 「2011 年原油価格見通しは 98.50 ドル = ロイター」

ロイター社がアナリストらを対象に纏めた原油価格見通し(3月24日時点)によると、2011 年 1Q の WTI は 94.30 ドルと前回見通し(2月17日時点で纏めた平均)の 88.99 ドルから引き上げられた。2011 年通年は 98.50 ドル(前回見通し 90.46 ドル)、2012 年は 97.70 ドル(同 93.63 ドル)とそれぞれ上方修正された。一方ブレントは、1Q が 104.00 ドルと前回見通しの 93.87 ドルから上方修正された。2011 年は 105.60 ドル(同 92.24 ドル)、2012 年は 104.60 ドル(同 92.50 ドル)へとそれぞれ引き上げられた。